

Safety and Environment Center for Petroleum
Development

SEC ニュース

一般財団法人 エンジニアリング協会

石油開発環境安全センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 CYD ビル

TEL(03)3502-4447 / FAX(03)3502-3265

URL: <http://www.ena.or.jp/SEC/>

第 77 号 / 2011 . 4

目次

- 委員会報告
第 2 回運営会議、第 2 回企画委員会
SEC の事業課題の検討について詳細説明
第 53 回評議委員会、第 65 回定例理事会
- 出張報告
・ATC(Arctic Technology Conference)参加
報告
- 会員の皆様へのお知らせ
・事務局異動
第 333 回サロン・ド・エナの開催延期等
- 会員の広場
・フォーラム、セミナー等に参加して - 4 件
- トピックス欄
中西準子部門長退任および文化功労者顕
彰記念講演会に出席して
・拙句雑感

東日本大震災によって被災されました方々には、謹んでお見舞い申し上げますとともに 1 日も早く復興されますよう心よりお祈り申し上げます。

当協会は、4 月 1 日より、「一般財団法人エンジニアリング協会」に移行しました。

委員会報告

平成 22 年度第 2 回運営会議

日時：3 月 22 日(火) 10：00～12：00

議題： 当協会の今後のあり方に関する第一
次検討結果について

石油センターの事業課題の検討について

平成 23 年度事業計画(案)及び平成 23 年度
予算(案)

報告案件(平成 22 年度事業概要他)

佐野委員長が万止むを得ない事情により欠
席され、同委員長の指示により入澤常務理事
が、議事進行を行うことが了承され、協会挨拶
があった。議題 について宮川常務理事より、
議題 について石油センターより内容
説明が行われ、審議の結果、承認された。本
会議で承認された上記 は理事会に付議さ
れることとなった。

上記運営会議の議題の内の 石油開発環境安全センター(SEC)の事業課題の検討についての
詳細説明

1 . 背景・目的

今年には、エンジニアリング振興協会が一般

平成 22 年度第 2 回企画委員会

予定していた 3 月 16 日(水)の第 2 回企画
委員会は、東日本大震災のため荻野委員長の
了解のもと書面審議となり、議案： 当協会
の今後のあり方に関する第一次検討結果に
ついて

石油センターの事業課題の検討について
平成 23 年度事業計画(案)及び平成 23 年度
予算(案)

報告案件(平成 22 年度事業概要他)

は、承認された。承認された上記 は運
営会議に付議されることとなった。

財団法人に移行し、石油開発環境安全センター
(SEC)も設立 20 年を迎えようとしている。

設立の経緯から SEC の主要な役割は、石油・天然ガス開発に係る「保安の確保と環境の保全」に関する情報収集や調査研究などであるが、現在までのところ国などが実施するプロジェクトを中心に受託・実施してきた。昨今、この実施案件が減少傾向にあり、さらに関係法令（鉱山保安法）などの改正や公益法人改革などの社会状況変化の進展もあり、将来の展望が見え難くなってきている。

このような状況下、賛助会員や関係行政機関などが SEC に期待していることなどを整理・見直しを行なうため、SEC の課題検討などについて事前検討を行なってきた。

2. 今後の進め方(案)

(1) 「企画技術部会」の設置

運営会議・企画委員会の承認を得て、企画委員会の下に、新たに「企画技術部会」を設置する。

< 企画技術部会の実施事項 >

- ・事前検討結果の新基軸・新分野を踏まえた SEC の課題・テーマの一層の探索・深堀と検討
- ・個別テーマの実行・進捗状況の把握・確認と

アドバイス

- ・SEC の組織機能(あり方/仕事の仕方等)についての議論の深化
- ・その他

< 部会の構成・運営 >

1) 部会の構成：賛助会員からの 10 名程度のメンバーで構成し、企画委員長が部会長を指名する。メンバーの任期は基本的に 1 年とし、再任は妨げない。

2) 開催頻度等

定期開催・・・各年度 5 月、8 月、11 月、2 月を目安とした 1 回/四半期程度

臨時開催：特に部会による検討・議論が必要な場合は、メンバーの要望に応じ部会長の判断で随時開催する

(2) 個別の課題・テーマの検討体制

企画技術部会は、必要に応じ部会の下にテーマを絞り会員企業からのテーマに精通した職員による各テーマ別分科会を設置して検討を行う。

第 5 3 回評議員会、第 6 5 回定例理事会

○第 5 3 回評議員会（3 月 3 0 日（水）1 4：0 0～1 5：2 0）

第 1 号議案 一般財団法人移行認可申請の最新状況について

第 2 号議案 定款変更の案（修正版）について

第 3 号議案 平成 2 3 年度事業計画（案）および収支予算（案）について

第 4 号議案 理事の交替に伴う選任について

新任：西沢隆人氏（三菱重工業（株）常務執行役員） 退任：宮永俊一氏

○第 6 5 回定例理事会（3 月 3 0 日（水）1 6：0 0～1 7：1 5）

第 1 号議案 一般財団法人移行認可申請の最新状況について

第 2 号議案 定款変更の案（修正版）について

第 3 号議案 平成 2 3 年度事業計画（案）および収支予算（案）について

第 4 号議案 顧問の推薦について

平成 1 2 年 4 月以来 1 1 年間会長職を務められ増田会長は、一般財団法人移行日をもって退任され、4 月 1 日付けで顧問にご就任いただくこととなった。

一般財団法人への移行については、昨年 5 月 3 1 日に内閣府に対して認可申請を行い、3 月 2 8 日付けで認可され、4 月 1 日付けにて移行・登記の運びとなった。

本評議員会、理事会において承認された平成 2 3 年度事業計画および収支予算については、ホームページに掲載。▼詳細はこちら <http://www.enaa.or.jp/> 協会の概要欄

出張報告

ATC(Arctic Technology Conference)参加報告

石油開発環境安全センター 部長代理 畠山 孝

1. はじめに

“Arctic Technology Conference (ATC)”は、

従来から開催されている“Offshore Technology Conference (OTC)”の中で「極寒地域における

資源開発」を特定した最初の国際会議であり、ガスハイドレート、環境に関する法規制および最新モニタリングシステムに関する情報を入手する機会となりました。

本出張は、「平成 22 年度メタンハイドレート開発に係る環境影響評価手法最適化に関する基礎研究の一部委託業務のうち環境関連情報の収集」として実施されました。本国際会議に参加することにより、世界的に極めて情報源が限定されているメタンハイドレート開発に関する貴重な情報を得ること、また、引き続き予定している英国でのヒアリング(メタンハイドレート開発において世界的に権威のある研究者への聞き取り)の事前情報として有益な資料を得ることなどを期待致しました。

2. スケジュール・開催地等

本会議は、2011 年 2 月 7 日～9 日の日程で、アメリカ・ヒューストンのダウンタウンにある“ジョージ R ブラウン コンベンション センター”で開催されました。3 日間の延べ参加者は、約 1200 人と報告されました。主要参加国は、アメリカ、カナダ、ノルウェー、オランダ、イギリス、ドイツ、ロシア、日本等です。

また、スポンサー組織は、OTC、米国石油地質学者協会、SPE の他 10 団体、民間会社では、コノコフィリップ、DNV、エクソンモービル、シェル、スタットオイル、トータル、他 3 社が協賛しました。

3. 概要

ガスハイドレート

アラスカ州ノースロープにあるブルドー湾において、米国エネルギー省の管轄により、ガスハイドレート開発が計画されており、フィールド試験の準備が行われていることが報告されました。また同地区では、ガスハイドレート層に二酸化炭素を圧入することによって、メタンと置換させるプロジェクトが、コノコフィリップス社等により計画されています。

一方、米国の研究機関では、海底下のガスハイドレートが溶解することによって生成されるメタンが気候変動に与える影響について調査しており、今後 100 年間で最高 5 前後の海底付近の海水の温度上昇があると予想しています。

環境法規制

北極圏の資源開発においては、海洋構築物に関する国際標準の策定が喫緊の課題となっています。これらの策定には、ISO, DNV, API 等の国際規格が参考とされています。ハザードの選定と

リスク評価に関する考え方が示されましたが、最大のハザードである「氷」に関するリスク評価が主目的であり、そのデータ収集・解析に関する報告がほとんどでした。メタンをハザードとして捉える報告はありませんでした。

最新モニタリングシステム

氷海における海象や海底地形調査のために、AUV システムは欠くことのできないものとなっています。この極寒、遠隔、闇黒という過酷な環境を克服するために、サテライトの設置によるリモートシステム、冰山や流氷等の衝突回避システム及び緊急時の回収システムについて最新の技術が紹介されました。

4. 感想

ガスハイドレートに関する発表は、米国南部の石油関係者には、あまり馴染みがないせいか、ほとんど参加者がいませんでした。メタンハイドレート開発について発表した、ハイドレート・エナジー社の方に、メタンが環境に与える影響について訊ねましたが、メキシコ湾の事故で、メタンがほとんど海水中に溶解したことから見ても、あまり問題がないのではないかという答えでした。

メタンハイドレート開発における環境ガイドラインを作成する上で、ISO19906 の作成に関する情報を収集出来たことは有意義であったと思います。

ISO19906「極地海洋構築物の国際標準」の作成には日本人も参画しておりましたし、氷海の調査に関しては日本からの報告もありましたが、資源開発を行うコンソーシアムには、日本企業が含まれていないようでした。今後、北極圏における資源開発が期待されていることから、日本の参加が望まれるところです。



ATC 会場：George R. Brown Convention Center
@ Houston

会員の皆様へのお知らせ

事務局異動

退職の挨拶

- ・ 退職 4月10日付 三浦 秀夫 石油開発環境安全センター 副所長



石油センター賛助会員の皆様、平成20年7月から約2年と10ヶ月大変お世話になりありがとうございました。

その間エン振協は、一般財団法人への移行、事業仕分けへの対応など、実に急激な環境変化に見舞われ、勢い石油センターも体制の立て直しなど大変革が求められたわけでありますが、この大事な時期2年以上石油センターに身をおきながら、私自身なんの力にもなれなかったとの思いが強く、石油センターを去るにあたり後ろ髪を引かれる思いをいたしております。にもかかわらず、賛助会員の皆様におかれましては常に支え、励ましていただいたこと、心から感謝申し上げる次第です。

これからの石油センターは、後任の若い力に託すことになりました。是非、これまで同様ご支援のほどお願い申し上げ、退任のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

新任の挨拶

- ・ 新任 4月1日付 中村 直 研究理事(技術部担当)、石油開発環境安全センター副所長(11日より)
(JFEエンジニアリング(株)より出向)



大震災からの復活に向け日本国中が一つに団結して国難に立ち向かおうとしている、まさにその時に今回の重責を頂き、身の引き締まる思いです。

わが日本はエネルギー資源の乏しい国であり、豊かな国作りを持続的に続けるためには新しいエネルギーの創出、近隣からの未利用エネルギーの発掘が不可欠です。そのために現在推進中テーマのスピードある成果出し、そして暮らしに活力与えるインパクトある新規テーマの創出が重要です。エンジニアリング協会の仲間と共に全力投球でこの課題に立ち向かう所存です。

皆様の絶大なるご支援をお願い致します。私は直球勝負で戦い続けます。

~~~~~  
第333回サロン・ド・エナ(3月16日(水))テーマ:「生物多様性とCSR~企業としての取組み~」の開催延期について

本講演は、東日本大震災のため中止となりました。なお、本テーマの講演は、第335回(5月18日開催)で行われる予定です。

「第334回サロン・ド・エナ」(4月20日(水)16:30~19:00)開催のご案内

テーマ:「世界へ羽ばたくスマートコミュニティ」

講師:小井沢 和明 氏

経済産業省 資源エネルギー庁新エネルギー・省エネルギー部国際戦略交渉官

▼詳細はこちら <http://www.ena.or.jp> What's New! 欄

## 会員の広場

### 東京大学低炭素社会実現のためのエネルギー工学寄付研究ユニット（SELCAS）

#### 第1回低炭素社会技術フォーラム

平成23年1月17日、東京大学生産技術研究所にて、東京電力からの寄付行為による標記フォーラムが開催され、火力発電技術、高効率発電、SOFC、褐炭の有効活用等に関する講演があった。複数の講演者より、日本のCO<sub>2</sub>排出量は世界の約4%にすぎないことから、国内で削減するよりも地球規模でCO<sub>2</sub>削減に貢献することが重要との発言があったのが印象的であった。（古川 記）

#### カーボン・キャプチャー・ストレージ&クリーン・コール・テクノロジー・セミナー

平成23年2月17日、カナダ大使館で標記セミナーが開催され、カナダから7社、日本から4社のプレゼンテーションがあった。カナダ側の非営利団体IPAC/CO<sub>2</sub>が二酸化炭素の地中貯留に関する自主基準について発表したが、当センターが環境影響に関する中立の評価機関を目指すとした場合、活動の方向性として参考になると考えられる。（古川 記）

#### ゼロエミッション石炭火力発電ワークショップ（IZEC）

平成23年2月23日、NEDO主催、RITE共済のワークショップが第一ホテル東京で開催され、ドイツ、オランダ、オーストラリア、韓国等のCCSの取組みが紹介され、活発なパネルディスカッションが行われた。急速にCCSに注力し始めた韓国との国際協力についても検討を開始すべき時期になったのではないかと考えられる。（古川 記）

#### 第19回メタンハイドレート開発実施検討会

経済産業省は、平成23年3月29日、メタンハイドレート開発実施検討会を開き、平成22年度事業報告、23年度事業計画案を了承した。

23年度事業計画では、世界初となる海洋産出試験の候補地を選定することになった。24年度中に第1回海洋産出試験を行う計画を示した。23年度中に選定する候補地は東部南海トラフ海域のうち候補地を2カ所に絞り込んでおり、最終的には1カ所に絞るとのことでした。

## トピックス欄

### 中西準子部門長退任および文化功労者顕彰記念講演会に出席して

当センターにとって大変かわりのある、「メタンハイドレート開発促進事業」の環境有識者会議の中西準子委員長の産総研部門長退任および文化功労者顕彰記念講演会が、平成23年2月25日（金）東京都北区「北とぴあ つつじホール」で開催されました。

講演会の前に、関東経済産業局長 照井恵光様と、朝日新聞社科学医療グループ高橋真理子様との挨拶があり、照井様は、中西委員長が産総研に来られた経緯、さらに今回の文化功労者顕彰が3つの点で嬉しいと話された。1.産総研に入ってから業績である、ADMER（産総研-曝露リスク評価大気拡散モデル）や詳細リスク評価書が主たる対象になっていること。2.新しい尺度を考えて定量化したこと、立場の違いを超えて理解してもらうためには定量化が重要である。3.リスク評価に対し逃げないという厳しい姿勢で臨み、リスクゼロはないことを明確に示し、それをつらぬいた成果であると話された。

講演会は、「産総研の10年-リスク評価なくしてイノベーションなし-」のタイトルで、主に産総研に入ってからのことについて話されました。講演会の参加者は満席の400人でした。



( 記念講演 )

( 中西委員長のホームページを参考に記載いたしました。 茅沼 記 )



( 文化功労者 顕彰式 11/4 )

#### M E T I ニュース

##### ○節電ウェブページ開設のお知らせ( 4月1日付 )

経済産業省は、具体的な節電アクションやその効果、節電啓発CM、関係リンク集をまとめて節電ウェブページを開設いたします。

▼詳細はこちら

<http://www.meti.go.jp/press/2011/04/20110401002/20110401002.html>

拙句雑感：このたびの東日本大震災の被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。小生は、1978年の宮城沖地震に石巻で仕事をしており遭遇いたしました。テレビで被災地の状況を見ると仕事場近辺の家屋、住んでいた家屋は、流され跡形も有りませんでした。当時お世話になった方達の多くは、避難所生活の様です。何か微力ではあるが、支援出来ることはないかと連絡を取り合っているところです。被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げますとともに、1個人としてもできる限りの支援を行いたいと思います。英国の歴史家アーノルド・J・トインビーがかって指摘したように、国家や文明は戦争や天災によって滅びることはなく、滅びるのはそうした挑戦への応戦力の喪失の結果によってである。今回の災害は日本社会の耐久力の強さを示した。それを未来へとつなげるのは政治家をはじめとする社会各層の指導者の責務である。(下線は日本経済新聞 3/25「国のかたち」新たな創造を：中西寛 京都大学教授より)

( S E C ニュース編集者 )